

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

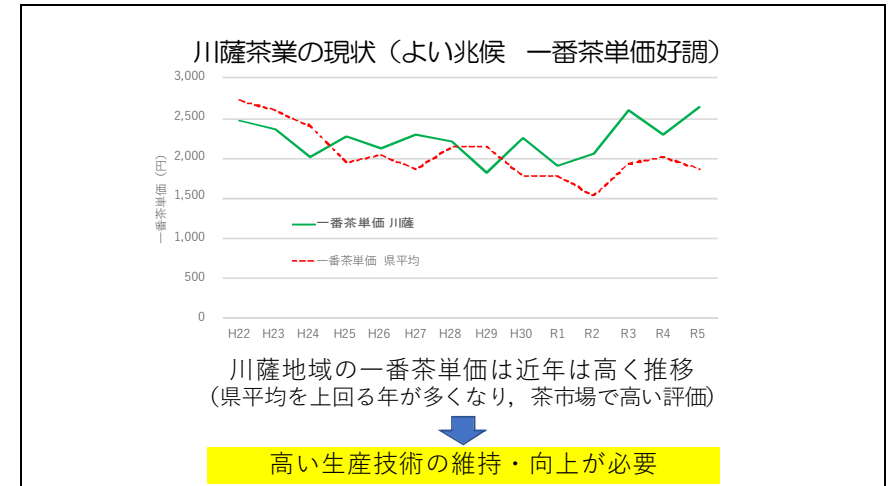
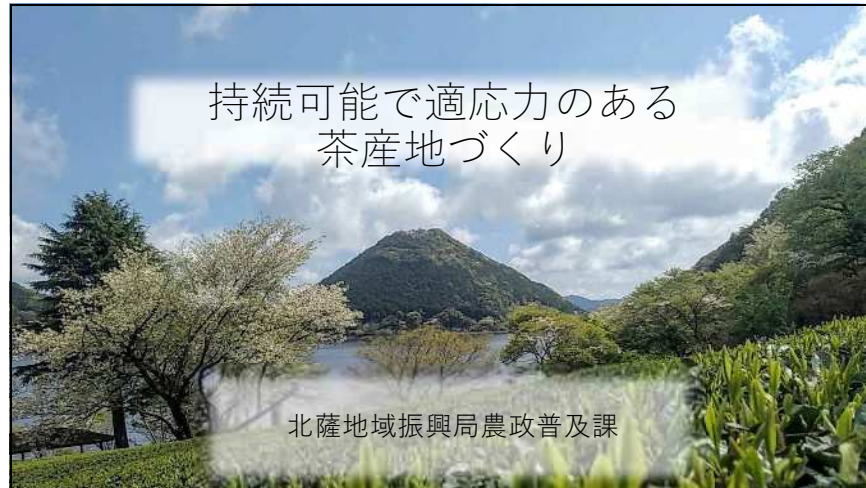
所属名: 北薩地域振興局 農政普及課

課題名② 持続的で適応力のある茶産地づくり						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5			・時代に適応した課題となっている。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	5				
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	5			・関係機関と地域農業者の連携がとれている。 ・スマートフォンを活用して情報収集や品質改善に役立っている。	
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	5				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5			・若手の育成に力をいれている。	
活動の 波及性と改善	⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	2	3		・若い担い手には波及効果が高い。	・引き続き次年度の普及計画に位置づけるとともに, 各種研修会等を通じて成果の普及に取り組む。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	1			

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 北薩地域振興局 農政普及課

課題名② 持続的で適応力のある茶産地づくり						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	3			・有機と既存の栽培をどのように組み合わせていくのか知りたい。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2	1		・技連活動を中心として行政区域を越えた活動を評価する。	
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	3			・今後も改善対策に努めてほしい。	・引き続き次年度の普及計画に位置づけるとともに、各種研修会等を通じて成果の普及に取り組む。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3				
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	2	1			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	2			
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	1			



川薩地域の茶業について

川内川の霧や冷涼な風土に育まれた銘茶産地

- ・ 荒茶工場：29工場
- ・ 茶園面積：278ha（摘採面積：233ha）
- ・ 荒茶生産量：648t

川薩地域のお茶は、川内川流域に沿って特有の霧の中で育ち、冷涼な風土のもと、深みのある味わいと新緑の香りが高い評価を受けており、県内でも有数の優良茶産地として知られている。

川薩茶業の現状（懸念① 二番茶以降価格低迷）

R5年産 荒茶単価（円/kg）の推移

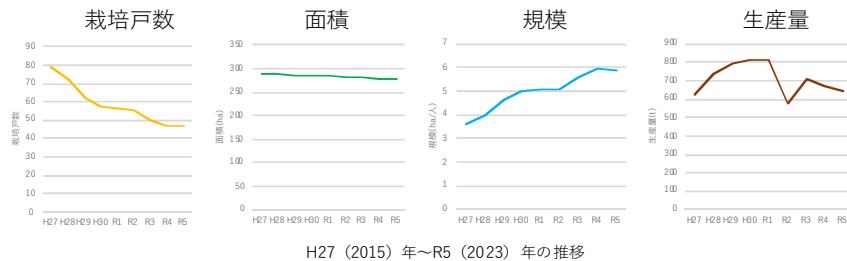
	JA北さつま	県	価格差
一番茶	2,600円	1,846円	+ 754円
二番茶	557円	727円	▲170円
三番茶	373円	403円	▲30円
秋冬番茶	244円	278円	▲34円
年間	989円	884円	+ 105円

注）一～三番茶は本茶，秋冬番茶は全茶種の平均

ドリンク・輸出原料となる二番茶以降の収益性確保が課題

ドリンク用国際水準GAP認証，輸出用有機JAS認証の取得が必要

川薩茶業の現状（懸念② 担い手減少）



栽培戸数・茶園面積は減少傾向，規模拡大で生産量維持だが労力限界

担い手の資質向上による儲かる茶業の実現

目的：持続可能で適応力のある茶産地づくり

1 高品質茶生産力の向上

- ・ 出品茶の取組強化（肥培管理，自工場製造）
- ・ 茶工場でのスマホでの蒸し葉撮影実証

2 有機栽培・IPM・低コスト

- ・ 有機栽培技術導入
- ・ IPM（天敵温存，薬剤抵抗性）
- ・ 菌体りん酸肥料活用

3 担い手による国際水準GAPの取得

- ・ 勉強会の開催
- ・ 先進農家研修
- ・ ASIAGAP取得に向けた組織活動

*IPM：総合病害虫管理
GAP：農業生産工程管理

川薩茶業の現状（懸念③ 資材高騰）

表1. 肥料農薬費の推移

	肥料農薬費（円/10a）		
	肥料	農薬	合計
R2	61,593	5,900	67,493
R3	53,923	11,735	65,658
R4	59,571	18,465	78,036
R5	74,201	26,960	101,161

注）管内施肥農薬実態調査より

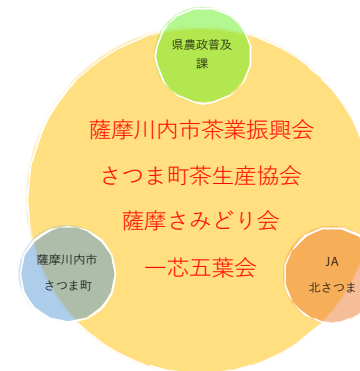
表2. 荒茶1kgあたりの動力光熱費

	動力光熱費（円/kg荒茶）			
	重油	LPガス	電気	燃料費
R2	67	12	19	98
R5	105	17	20	142

注）荒茶1kgあたり重油1kg，電気1kwh，ガス0.1kgで計算

低コスト茶生産や未利用資源の活用が必要

役割分担と関係機関の支援体制



【関係機関の役割分担】

- 県農政普及課：①有機JAS/ASIAGAP
②低コスト/スマート技術
③高品質茶生産を普及計画に位置づけ
- JA北さつま：栽培・製茶・仕上指導，GAP指導
- 薩摩川内市：施策，事業支援，出品支援，GAP指導
- * 月1回の技連会

【その他の支援】

- 経済連茶事業部：市況情報，製造指導
- 専指・茶業部：製茶指導，品質評価

1 高品質茶生産力の向上

1 高品質茶生産力の向上
(出品茶園での栽培管理指導)

更新方法 (時期)	5月						6月						7月						8月	
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2
一番茶後中切り (5/15~25)				○															○	
	更新						生育期間:60~70日						最終整枝							
二番茶後深刈り (6/ 5~15)							○		○										○	○
							更新						生育期間:50~55日						最終整枝	



技連会と連携して、出品茶園で重要な更新技術を定期的に指導

1 高品質茶生産力の向上
(出品茶園の設置とお茶まつりの誘致)

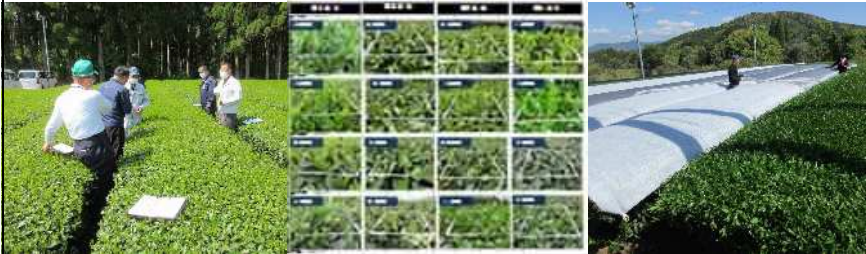
茶工場名	ライン	地区	部門
A	60K型	川内	両
B	60K型	樋脇	両
C	120K型	樋脇	10K
D	90K型	樋脇	両
E	120K型	東郷	経改
F	120K型	入来	経改
G	60K型	入来	10K
H	200K型	樋脇	経改
I	120K型	樋脇	経改
J	60K型	樋脇	10K
K	120K型	入来	経改



JA薩摩川内茶業部会臨時総会(H29.12.19)

薩摩川内市茶業振興会では、栽培技術の向上を目的に2018年から出品茶の取組を強化し全工場が出品茶園を設置し、2021年にお茶まつりを誘致することとした。

1 高品質茶生産力の向上
(一番茶生育調査、作業管理指導)



技連会による生育調査

情報提供

被覆指導

出品茶園等の一番茶生育調査を実施し、摘採時期等の情報提供を行うと共に、作業管理の指導を行った。

1 高品質茶生産力の向上

(自工場での出品茶製造支援：薩摩川内市の大きな特徴)



摘採位置決め

自工場での出品茶製造風景

出品茶づくりが日々のお茶づくりに生かされるために
自工場での出品茶製造の取組を支援
(他産地では出品茶は研修工場に持ち込み、主に技術員が製造する)

成果：産地賞，農林水産大臣賞の受賞



3年連続産地賞受賞

産地賞受賞祝賀会



R4 岩下荒茶加工組合



R5 山佐園



R6 (有) 中之原製茶

薩摩川内市が産地賞および農林水産大臣賞を連続受賞

1 高品質茶生産力の向上

(早朝互評会の活用：遠隔地の工夫)



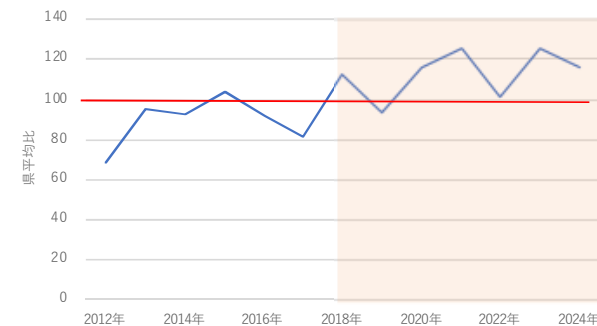
茶市場での入札

早朝互評会での品質の確認

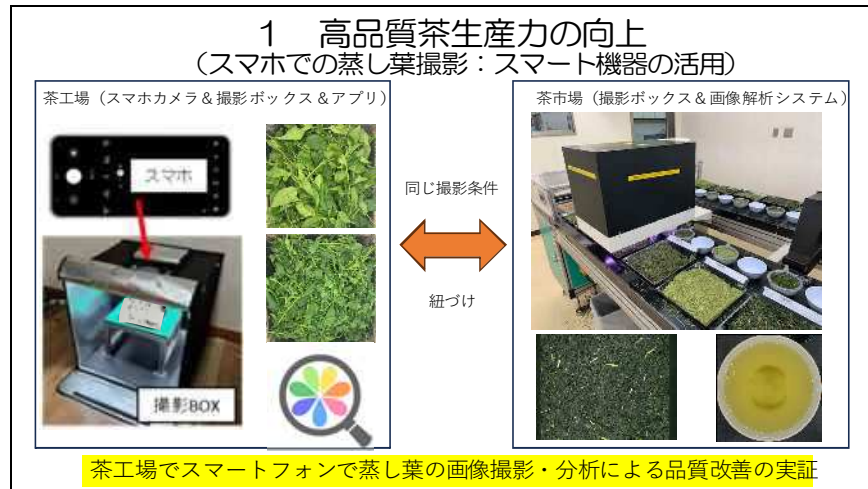
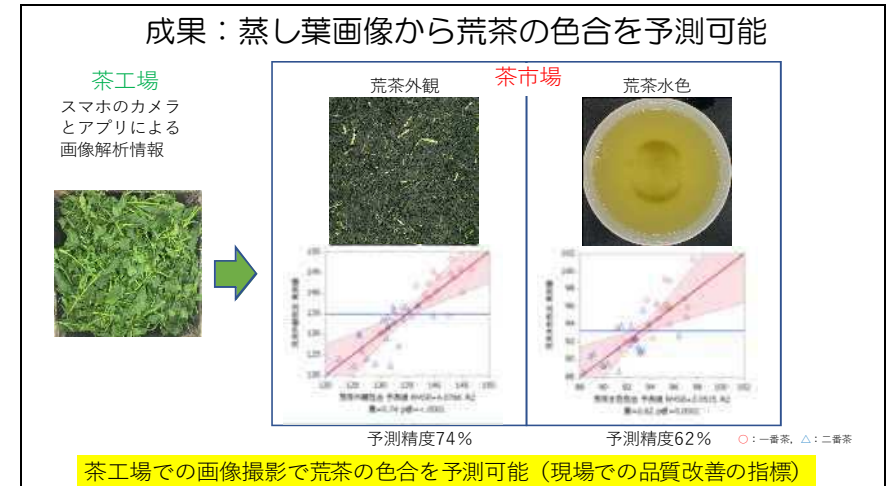
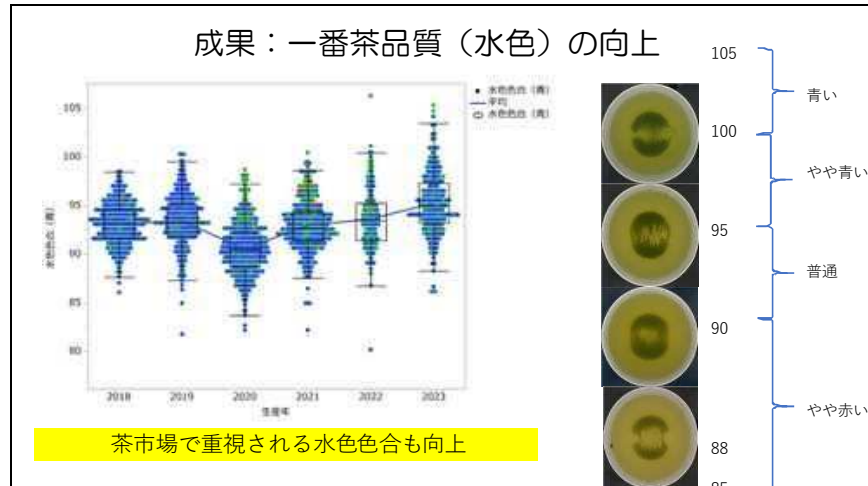
茶市場に入札される産地の荒茶を早朝に拝見し、品質が
保たれているか確認、欠点があれば技連会で迅速に対応

成果：一番茶単価の向上

取組前 取組後



出品茶への取り組み以降、茶市場での一番茶単価は県平均より高く推移
(茶商の評価や認知度も年々高まる)



2 有機栽培, IPM, 低コスト

2 有機, IPM, 低コスト

有機茶栽培の利点と課題

利点

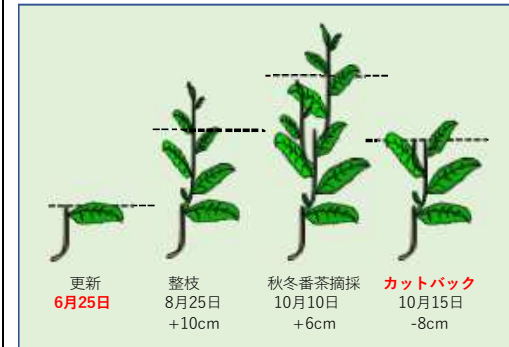
- 抹茶の輸出が好調
- 地域環境保全

課題

- 労力増（特に除草）
- 病虫害被害（特にヨコバイ）
- 有機肥料のコスト高
- 茶期が遅れる（特にてん茶）
- 認証取得まで時間がかかる（転換期間が3年）

2 有機, IPM, 低コスト

カットバックの導入



カットバックの利点

- 摘採遅れに対応
- 樹勢+芽数確保
- 病虫害被害少ない
- 秋冬番茶が良い芽

カットバックの懸念

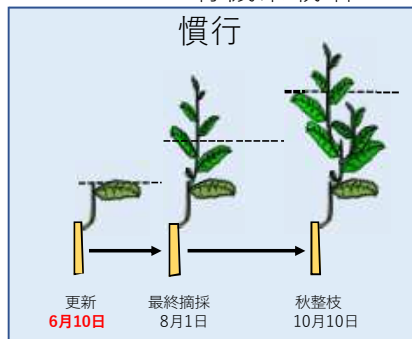
- 一番茶芽の不揃い
- 品種適応性
- 年間の収益性

有機茶園で有効と思われるカットバック技術を導入

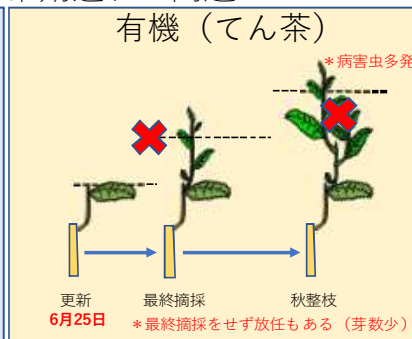
2 有機, IPM, 低コスト

有機茶栽培での茶期遅れの問題

慣行

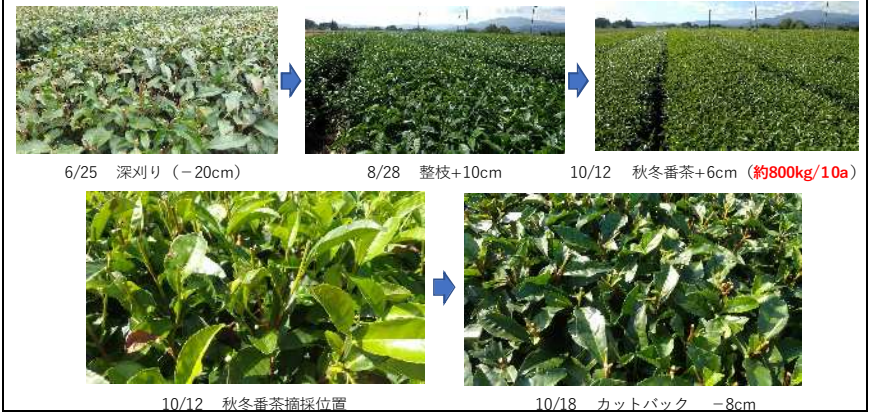


有機（てん茶）



有機（てん茶）では摘採が遅れるため更新時期が遅れ、その後の芽の充実が劣る

成果：カットバック導入有機茶園での生育



成果：カットバック導入有機茶園での一番茶生育



一番茶萌芽状況 (4/18, 有効芽数32.3本)

一番茶生育状況 (4月25日)



一番茶生育状況 (5月1日, 被覆直前)



枝ごとの一番茶伸育状況 (5月26日摘採日, 約1.2 t/10a)

一番茶は枝の太さによる芽のばらつきはあったものの、十分な収量が得られた

2 有機, IPM, 低コスト (薬剤感受性低下への対応)

管内でチャノホソガの被害拡大→薬剤感受性低下？

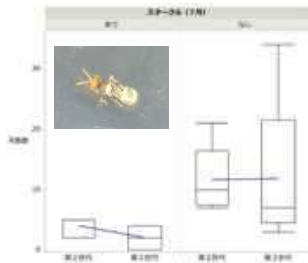


○茶園管理層に採用されているジアミド系殺虫剤に対する薬剤感受性が低下

○スピノシン系殺虫剤は効果が高く、ジアミド系でも十分な効果がある殺虫剤あり

2 有機, IPM, 低コスト (天敵保護)

管内でチャトゲコナジラミの被害拡大 → 天敵の活動？



○茶園管理層に採用されているネオニコチノイド系殺虫剤が
天敵 (シルベストリコバチ) に影響がある

成果：天敵保護、薬剤感受性対応栽培層



○チャトゲコナジラミの天敵 (シルベストリコバチ) に影響の少ない農薬を選択

○ジアミド抵抗性ホソガに効果のある殺虫剤を選択

2 有機, IPM, 低コスト (未利用資源の活用: 菌体りん酸肥料(汚泥堆肥))

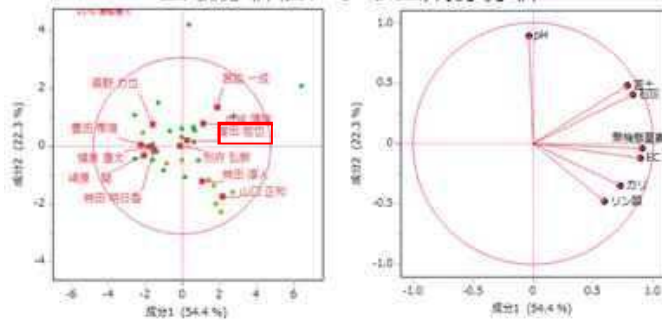


R5 64,296円 → R6 53,696円

低コスト肥料として菌体りん酸肥料の導入を支援 → ○肥料費削減

3 担い手による国際水準ASIAGAP取得

成果: 菌体りん酸肥料施用ほ場の土壌分析 土壌分析値による主成分分析



- 土壌分析値の主成分分析により各生産者の土壌の特徴を可視化。
- 菌体りん酸肥料施用ほ場の分析値に大きな問題はない。

3 担い手による国際水準GAP取得 (ASIAGAP勉強会の開催)



HACCPの理解

管理点の理解

先行取得会員からのアドバイス

- 二番茶以降の収益確保のために国際水準GAP認証取得の気運が高まった
- 先行取得会員の具体的な事例を勉強しながら、取得に向けた準備を開始した

3 担い手による国際水準GAP取得 (ASIAGAP先進農家研修)



連絡ボード



危険物倉庫



先進農家との質疑

○薩摩さみどり会で先進農家によるASIAGAPの取組を研修

3 担い手による国際水準GAP取得 (会員同士での研鑽)



マニュアル準備会の実施（合計14回開催）



救命救急講習



会員同士での内部監査

○管理点への対応マニュアルは準備会を設けて、会員で意見交換しながら進めた
○必要な講習や内部監査等も、会で行うようようにし、情報を共有した

3 担い手による国際水準GAP取得 (取得スケジュールと技連会の役割分担)

生産者	R6								R7	19~15ヶ月	19~24ヶ月
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	維持審査	更新審査
1	見積・審査 申込み			内部監査・ 審査	修正・取得					R7秋冬審	R8.8
2		見積もり		審査申込み			内部監査・ 審査	修正・取得		R7秋冬審	R8.11
3		見積もり		審査申込み			内部監査・ 審査	修正・取得		R7秋冬審	R8.11
4		見積もり		審査申込み			内部監査・ 審査	修正・取得		R7秋冬審	R8.11
5		見積もり		審査申込み			内部監査	審査	修正・取得	R7秋冬審	R8.12
6		見積もり		審査申込み			内部監査	審査	修正・取得	R7秋冬審	R8.12
7				見積・審査 申込み			内部監査	審査	修正・取得	R7秋冬審	R8.12
8				見積・審査 申込み			内部監査	審査	修正・取得	R7秋冬審	R8.12

○各生産者に技連会の担当を配置し、スケジュールに基づく帳票準備を分担した
○作業が先行していた会員が見本となり、他の会員や技連会の励みとなった

成果：認証取得



本審査の風景



認証取得

○薩摩さみどり会で新規に6戸がASIAGAP認証取得
○会以外の1戸は準備保留、1戸は断念（組織的な指導がうまく出来なかった）

成果：担い手の意識変化 (ASIAGAP取得の過程で得たもの)



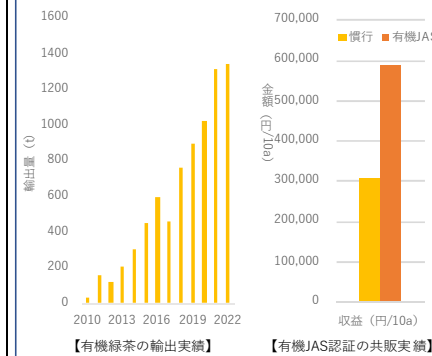
倉庫の整理整頓

農作業事故リスク低減

「会社の様々なルール策定や整理整頓で経営のレベルが一段上がった」
 「取り組んで良かった、ここからがスタート」
 「ルール管理の責任者として親世代が認めてくれ自信を深めた」

今後の取り組み

①有機JAS認証の取組強化



有機JAS認証茶の品質向上、差別化

②雇用確保のための工場再編, 生葉集約



工場再編に向けた話し合い



地域からの認証茶の生葉集約

活動の成果（まとめ）

1 高品質茶生産

- ・一番茶高単価の維持と品質向上
- ・県品評会産地賞, 農林水産大臣賞連続受賞
- ・スマホ画像による品質改善

2 有機, IPM, 低コスト

- ・有機茶園でのカットバックの導入
- ・天敵や薬剤感受性を考慮した茶園管理暦
- ・汚泥堆肥の活用

3 担い手による 国際水準GAP取得

- ・会員で協力してASIAGAP認証取得
- ・担い手の意識変化, 資質向上

これからも
安心・安全で適応力のある茶産地
を継承します！

ご清聴ありがとうございました！